

支援を受けて海外商標権を取得 知財を活用して海外展開を目指す

本 社 〒814-0031
福岡県福岡市早良区南庄2丁目9番12号
TEL: 092-851-3900 FAX: 092-851-3947

U R L <http://www.d-ken.jp/>

業 務 内 容 用地補償業務、住宅地開発、雨水貯水地下タンク、開発許可申請業務、
耐震・耐液状工法、土木設計

設 立 年 昭和49年3月

資 本 金 1,000万円

従 業 員 数 44名



代表取締役
松尾憲親氏

大建は、補償コンサルタントをメインに住宅地開発などを行う会社である。また、住宅デベロッパーとしてライフラインの重要性を認識し、社会に貢献することを目指している。雨水貯水地下タンク「ためとっと」は、九州大学と共同研究で実現したものである。短期間の簡単な工事で、大量の雨水を飲料水並みの水質で貯水でき、自立分散型の利水も治水も兼ねた仕組みである。

■海外展開を検討中、知財管理に懸念

1974年（昭和49年）の創業以来、公共事業を進める上で必要な土地の買収・移転に伴う権利者への補償に関する業務を行って発展してきた同社。社会に貢献できる仕事を行っていく使命を感じ、雨水貯水地下タンク「ためとっと」の事業を開始した。

同社は、ためとっとの日本における特許権は取得していたが、海外についてはどのように自社技術等を保護すればよいか悩みを抱えていた。

取材企業の声

知財に関する優先順位はもちろんのこと、プロジェクトにおける優先順位も明らかにしていただきました。実務ばかりになりがちな弊社の姿勢をお金の流れや回収、責任範囲等を契約に入れ込むアドバイスをいただき、相手と交渉することが出来ました。プロジェクト自体は流れてしまいましたが、成功の実務を教えてくださいました。

（同社代表取締役 松尾氏）

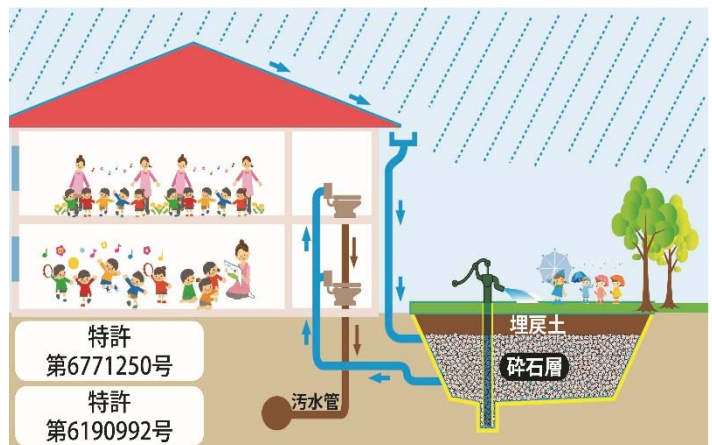
海外取引のための契約書作成は、弁護士や専門家に相談しなければ危険で、補助金の活用方法も丁寧にアドバイスをいただきました。

（同社事業部 岡本氏）

そんな折、福岡市で開催された海外展開支援施策説明会&個別相談会に参加し、海外知的財産プロデューサーに相談を行ったことがきっかけで、同プロデューサーによる支援が始まった。

■知的財産権取得の目的を明確化

担当プロデューサーは、「ためとっと」の海外進出に関する知的財産リスクと対策を同社に説明し、知的財産権取得の目的を明確にするよう助言した。特に、同社は海外進出後の模倣品対策が懸念点であったため、特許よりも見た目ですぐにわかる商標・意匠が効果的であることも助言した。



ためとっとの仕組み
降った雨を屋根から集め、砕石層のタンクに貯水する。水はトイレに流したり、災害時は手押しポンプで使用できる。

また、海外における商標権取得に関する注意点として、言語の問題があることを伝え、「ためとつと」の商標に関しては、外観、称呼、観念の観点での出願の仕方を検討することを勧めた。

技術に関しても、日本で取得済みの特許権と、権利化していないノウハウを適切に管理・活用した事業展開を行うことが重要であると説明した。

同社代表取締役の松尾氏は、「知的財産権の必要性は感じていたが、活用方法や権利化の優先順位がわからなかった。海外知的財産プロデューサーに相談してそれらを理解することができた。」と当時を振り返った。

同社はその後、ノウハウ等の秘密情報管理体制を構築し、「ためとつと」の日本語表記やローマ字表記を海外事業展開国へ商標出願した。また、海外への商標出願に関して、福岡県知財総合支援窓口を通して外国出願補助金を利用した。

また、同時に、商標使用ルールを策定し、ルールに則り、登録した商標をプレゼンテーション資料やパンフレット等に使用した。

■さらなる海外展開を目指して

同社が当初予定していた海外展開は先方のプロジェクトが延期となり、実績とはならなかった。しかし、社内で整備した知的財産の管理体制や取得した知的財産権は今後に活用できるものであり、第二、第三の海外展開先を模索中である。

支援を振り返って

本件は海外における新規事業の展開をサポートする知的財産戦略の構築と実行を支援した事例である。今後は国内における事業展開も視野に入れて支援を継続する所存である。

(海外知的財産プロデューサー 松島重夫)



ケニア・カロベイエイ新居住区
における「ためとつと」の工事風景

当時の経験について、松尾氏は「プロジェクトは成功しなかったが、海外展開に関する教訓や知財管理や契約に対応する準備ができたことは良かった。」と感じていると言う。

このように、同社は海外展開を検討して、海外知的財産プロデューサーに相談を行ったが、まずは自社の技術の強みは何か、知的財産権の取得の目的は何か、どのように管理するのか、といった内容の助言を受け、知的財産に関する理解を深めた。さらに、日本と外国における知的財産の取り扱い方の違いなどについても助言を受け、いつでも海外に進出できるように準備を進めている。松尾氏が「我々の成功を考えた本音の助言をもらっている。この関係性は大変ありがたく、何でも相談させてもらっている。」というように海外知的財産プロデューサーへの信頼は厚く、引き続き、支援を活用したい方針だ。

今後の 事業展開

新型コロナウイルス感染症の影響でストップしている海外関連の事業を成功させたい。
「ためとつと」を災害時の用水確保や貯水容量の管理による減災にも利用するなど、社会貢献できるプロジェクトを提案し続けたい。